

うたごよみ 弥生

〔短歌〕

塚原曉益選

もう二月今か今かと待ちわびる沈丁花の香  
と早春の風  
緒方 明美

正月に子孫ら家族里帰り皆元気で吾も元氣  
に  
赤星 文子

最強の寒波連れ来る昨夜の雪は日射しの中  
にキラキラ光る  
吉永由紀子

十年に一度の寒さたえて咲くさざん花の花  
色深みゆく  
内田乃武子

「おはよう」と遺影の夫に語りかけ私はま  
だまだ元気でいるよ  
池田 キヨ子

川辺の土手に菜の花咲いているたしかに春  
はそこまで来てる  
塚原 曉益

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局  
☎096・234・2447 (内線321)

〔肥後狂句〕

北川直美選

まんまんさん

敵は居らんが何も無か 広田みどり

まんまんさん

地蔵万十そえる人 下山 千恵

まんまんさん

子供の時ア皆無邪気 志垣 光

まんまんさん

もみじの手から拝み馴れ 佐藤 葵

まんまんさん

マイダーリンはこぎゃん人 平井やよい

まんまんさん

正直者ンの代名詞 長原 産賀

まんまんさん

一つ願いを呟いて 光永 六

まんまんさん

話して安堵する女房 井元あさみ

まんまんさん

ひ孫も連れて墓参り 日高 美里

まんまんさん

にこやか笑顔邪気もなし 上田 梅清

まんまんさん

足向けて寝るのは駄目よ 中村 南幸

まんまんさん

いじめられても笑うとる 北川 直美

※「まんまんさん」とは甲佐の方言で、意味は  
仏様や正直者などを疑わない人。

## ひとの動き (敬称略)

1月11日(水)～2月10日(金)届出

### birth お誕生おめでとう

住所 氏名 性別 保護者  
豊内 原口 結海 女 平  
ほか5件

### marriage ご結婚おめでとう

今月の婚姻夫婦 1組

### condolence お悔やみ申し上げます

住所 氏名 年齢 世帯主  
芝原 田端 孝英 92 孝英  
豊内 村上 雄一 36 謙治  
岩下 西村 祐一 90 悦子  
津志田 田中 澤子 82 晴信  
糸田 本郷 綱雄 93 テイ子  
西寒野 萩 フミ子 94 フミ子  
上早川 井藤 晋策 87 孝子  
船津 仲原 榮子 94 秋則  
岩下 野中 利光 89 利光  
府領 児成 時子 97 恵美子  
ほか7人

### data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	4,919	▲11
女	5,328	▲14
計	10,247	▲25
世帯数	4,423	▲13

令和5年1月31日現在

## こうさの野菜で作ってみよう!

レシピ提供：料理研究家 沼田峰子さん(北原区)



### お雛様に簡単イチゴケーキ

#### ご存じですか？

ビタミンCは風邪予防や美肌に効果があると言われています。実はイチゴをたった5粒食べるだけで、レモン2・5個分のビタミンCが摂取できるってご存じですか。

今回は、「ひなまつり」に親子で楽しく食べてほしいイチゴを使ったケーキをご紹介します。

「ひなまつり」は中国から伝わり、平安時代の厄払いの風習と混ざった形で現在に至ったと言われています。子どもが健康で大きく育ちますようにという願いが込められて祭りになったのではないのでしょうか。

イチゴケーキを楽しく食べて風邪を撃退し、お肌ツルツルを目指しましょう。



#### 作り方

- ①ボウルに卵を割り入れ、泡立て器でよく解き、牛乳を加えさらに混ぜます。
- ②①にミックス粉を入れ、さっくり混ぜ、ラップをかけ15分ほど、生地を休ませます。
- ③ボウルに冷蔵庫で冷やした生クリームを入れたら砂糖を加え泡立てます。泡立てすぎると分離するので、気を付けましょう。
- ④フライパンを熱したら、薄くサラダ油を引き、②の生地を3分の1ずつ焼きましょう。
- ⑤飾り用のイチゴとスライスしたイチゴを準備します。
- ⑥ホットケーキが冷めたら、生クリームを塗りスライスしたイチゴを並べ2枚目、3枚目を重ねて同じようにイチゴを並べたら完成です。

#### 材料

ホットケーキミックス粉 ..... 150g  
卵M玉 ..... 1個  
牛乳 ..... 100cc  
塩 ..... ふたつまみ  
【デコレーション用】  
生クリーム ..... 200cc  
砂糖 ..... 大さじ2  
イチゴ ..... 1/2パック  
サラダ油 ..... 少々

今月は公共交通の特集。自家用車での移動ばかりの私も、今回はじめて町営バスに乗ってみました。路線バスならではのゆったりとした時間や普段と違った景色を車窓から楽しむのも良いものですね。

バスの乗り方教室の取材では、小学生の半数以上が路線バスに乗ったことないことに驚きました。理由は「バスの乗り方がわからないから歩いていきます」という回答が最多でした。一度体験することがバス利用者増の一番の近道なのかもしれません。

公共交通が欠かせない生活を送っている人もいれば馴染みがない人もいます。今は使わないという人も、いざ無くなってしまうと困るときが来るはず。今回の特集で「たまにはバスに乗ってみようかな」と思ってくれる人が少しでも増えてくれれば嬉しいです。(志)

編集後記